

お盆の墓参り 散密で

新型コロナウイルスの感染再拡大で、お盆の墓参りも様変わりしている。墓参者の集中を避けるため分散化、少人数化傾向がみられるほか、墓前に行けない人たちが利用する墓参り代行サービスの需要も高まっている。

「お寺さんがお墓を回る日は密集するかもしれないから行かない方がいいと子どもが言うので」。名古屋市千種区の主婦三宅玲子さん(66)は九日、名古屋市千種区の平和公園にある墓前に一人で立った。

例年、バスを使って来るが、混雑を避けるため自宅から四十分かけて歩いて来た。子どもからの提案で、家族そろっての墓参はやめ、自宅での食事会も中止に。「いつものにぎやかなお盆にはならないけど、一人でもお参りに来られて良かった」と手を合わせた。

駐車場に止まる車のナンバーは名古屋が大半だが、県外ナンバーも。愛知県が独自の緊急事態宣言を出すなど、中部地方の一部の知



食事会なし直行直帰 ■ 遠方から代行依頼

事が県をまたぐ移動を慎重に判断するよう求めているが、岐阜県多治見市の会社員角野滋典さん(66)は「自宅からお墓に直行でどこにも寄らない。うちの墓がある区画は密集していない。問題ないと思う」と語った。マスク姿で読経を繰り返していた長円寺(名古屋市中村区)の龍山祐真住職(50)は「昨年より多い。特に車で来る人が増えた印象」。昼までに約八十件のお勤めを終え、大粒の汗をぬぐった。

一方、愛知県と岐阜県中濃地域で展開されている墓参り代行サービス「縁道」には、昨年の二倍のペースで申し込みが相次いでいる。東京や大阪、宮城などに住んでいる人が帰省をあきらめ、泣く泣く依頼をしてくるといふ。

サービスでは、墓地の草抜きや墓石の水掃除、線香やろうそく、仏花を交換してくれる。掃除の後には、テレビ電話で墓の様子を見ながら遠隔での「リモート墓参り」もできる。浅野貴大事業部長は「コロナのために墓参りをしたくてもできない人たちのもやもやとした気持ちを少しでも解消できれば」と話していた。

墓参りに訪れた人たち(9日午前、名古屋市長久区平和公園で)